

授業科目名	共生科学教育論	単位数	2単位
担当教員名	永井礼正	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
<p>DP1.多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけることができる(貢献力)</p> <p>DP3.自分の専門以外の領域からも得られた知見を統合することができる(統合知)</p> <p>DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる(継続力)</p>			
授業のテーマ及び到達目標			
共生社会を構築するための教育とは何か、共生と教育の関係を考え、課題を明らかにし、解決策を探る。			
授業の概要			
「共生への対話」「共生科学総論」を受け、専門科目、「卒業論文」「共生科学」へ繋げるため、教員、学生同士の対話により、共生教育を考える。			
授業計画			
<p>第1回:国の教育施策や世界の教育の動向</p> <p>第2回:教員としての子ども観、教育観等についての省察</p> <p>第3回:子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見</p> <p>第4回:子どもの生活の変化を踏まえた課題</p> <p>第5回:共生をどうとらえるか</p> <p>第6回:共生社会をどうとらえるか</p> <p>第7回:共生教育をどうとらえるか</p> <p>第8回:課題設定(自己)</p> <p>第9回:課題設定(グループワーク)</p> <p>第10回:仮説立案(グループワーク)</p> <p>第11回:調査(グループワーク)</p> <p>第12回:分析/考察(グループワーク)</p> <p>第13回:プレゼンテーション(グループワーク)</p> <p>第14回:省察</p> <p>第15回:展望</p> <p>科目修得試験</p>			
スクーリングでの学修			
第1回から第7回(自己学習)までの総括。教員からの問題提起を踏まえ、第8回から第13回までをグループワークによって実施する。			
テキスト			
星槎大学教員免許状更新講習センター(2020)『教育の最新事情/現代教育の動向と課題—「共生の教育を実現するために—』教育出版、978-4316804743			
参考書・参考資料等			
<p>天野 一哉(2013)『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか - 格差社会の超エリート 教育事情』中央公論新社、978-4121504562</p> <p>山脇直司ほか(2019)『共生科学概説 共生社会の構築のために』かまくら春秋社、978-4774080086</p>			
学生に対する評価			
スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)			